

☆☆☆☆徳島県技術士会創立 50 周年記念式典を終えて☆☆☆☆



(株)和コンサルタント
菊池 昭宏
Kikuchi Akihiro
(建設部門)

■第 52 回 CPD セミナー・公開講座(徳島)

「徳島県技術士会創立 50 周年記念式典」に先だって、(公社)日本技術士会四国本部主催の「第 52 回 CPD セミナー・公開講座(徳島会場)」が、公益社団法人 日本技術士会 四国本部の古野本部長の挨拶で開催された。このセミナーは四国四県が持ち回りで実施されており、技術士間の交流はもとより、一般市民への技術士の PR 等を通じてその知名度を上げることが図っている。



写真 1 受付の様子



写真 2 開会挨拶

今回のセミナーでは、50 周年という長い歴史、そしてこれからの未来という観点から、次の 2 題の演題・講師を選択した。

- ① CPD セミナー「人工知能で広がる・つながる技術～基本概念、関連技術、応用例について」
阿南工業高等専門学校創造技術工学科電気コース 中村雄一教授
- ② 公開講座「神社の話」
日枝(ひえ)神社 福成照夫宮司

■CPD セミナー 概要・所感

人工知能 AI とは、論理的な推論や経験から学習する脳の知的な作業を模倣したシステム等のこと。弱い AI と強い AI があり、弱い AI はチェス、自動運転など特定問題を解決するもの。強い AI は、人間の知能に迫る万能的なシステムで何らかの自意識を持つもの。知能的かどうか判定するのに「チューリングテスト」があるとのことである。



写真3 中村教授



写真4 会場の様子

ディープラーニング【深層学習】は強いAI 実現が期待できる？その基本概念は、多階層のニューラルネットワーク、バックプロパゲーション、畳み込みニューラルネットワークで、実は古くて新しい技術とのことである。

IBM ワトソンは、最も進んだシステム？でクイズ番組、医療診断、顧客サービス等で活用。今や平均的な医師より診断能力は上とのことである。また、文学、美術、音楽へ進出したAIもある。AI が人間を超える技術的特異点【シンギュラリティー】に関連して、マイクロソフト社の人工知能ロボット「Tay」が暴走して、差別的・暴力的発言をするようになった事例についての説明もあった。

最後に、人工知能・ロボットに奪われる職業・仕事、人工知能により発展していくであろう技術・分野などについて言及され、今後もその動向に注目していきたいと思った。

■公開講座 概要・所感

神道は、古代日本人(旧石器時代、縄文時代)のアミニズム、シャーマニズムから始まる。稲作により平野で人口が増え、五穀豊穡を祈願。やがてヤマト朝廷が祭を制定したり、古事記に天孫降臨が記せられたりしたとのことである。その後、仏教伝来。唐の律令制・軍隊を真似するため、仏教を選んだ。神道は未成熟だったので、浄土を受け入れる素地があった。真言宗でいう本地垂迹とは、神は仏が姿を変えたものということ。



写真5 福成宮司



写真6 会場の様子

鎌倉時代には神社は寺の管理下に入った。江戸時代には寺請制度ができ、神職も含め、人は皆、寺の檀家になった。それが、江戸中期の黒船来訪により、「本来の日本を取り戻す」「仏教けしからん(本居宣長)」となった。

明治政府は、「政教分離」と「祭政一致」という矛盾を抱えたが、日本国民は全て神社の氏子になり、国家神道が出来た。戦時、兵士を万歳三唱で送り出したこと等により、戦争協力をGHQに問われたが、村・地域・共同体の発展・安寧のためと説明し、今の形で残る。仏教とは、共存共栄、和して同ぜずの関係であるとのことである。

前段のAIの話と併せ、漠然とはあるが、古きものと新しいもので、より良いものが生まれるかも知れないと思った。

CPDセミナー・公開講座への参加者は、89名で内9名が一般の方であった。

■徳島県技術士会創立 50 周年記念式典

「徳島県技術士会創立 50 周年記念式典」は菊池の開式の辞でスタートした。



写真 7 開式の辞



写真 8 会長式辞

その後、物故者への黙祷を捧げ、富士会長からの式辞へと続いた。

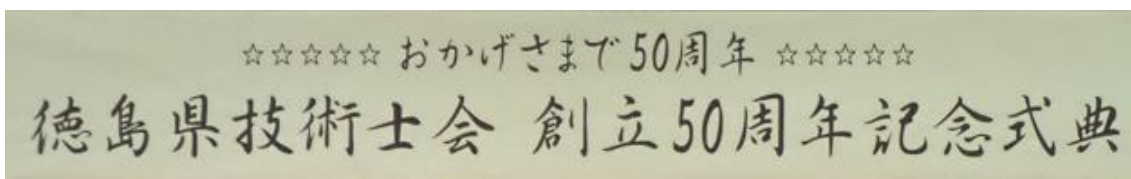


写真 9 ☆が 10 個

式辞の中で、富士会長が、「徳島県技術士会は、昭和 42 年 8 月に会員数 12 名で発足し、一歩ずつ歩み続けて早 50 年、現在では 14 部門に会員数 185 名を数えるまでに成長しました。また、現在の組織体制は、広報、修習技術者支援、出前講座、ホームページ、事業の 5 つの常設委員会と商工、建設、女性、青年の 4 つの部会が組織され、各部署の精力的な活動を通じて、当会の認知度も少しずつ高まってきたように思います。これもひとえに、歴代会長をはじめ各理事の皆さま、そして何よりも会員各位のご支援、ご協力の賜と深く感謝している次第でございます」と述べ、「これまでの 50 年に感謝すると共に、これからの 50 年に希望

を持って、本日より新たな一步を踏み出します」で挨拶を閉めた。「写真 9」の横断幕？で示すように、これまでの50年とこれからの50年を☆☆☆☆☆で表現し、徳島県技術士会の創立100周年に向かつての決意が感じ取れた。

続いて、本会の発展に寄与された“名誉会員”の方々に対して、感謝状の授与式が執り行われた。名誉会員を代表して、加賀第五代会長より感謝の気持ちが述べられた。

○第五代会長：加賀晃次、第六代会長：増田義博、第七代会長：古野隆久（敬称略）



写真 10 感謝状授与



写真 11 名誉会員より一言

来賓として、徳島県の海野修司副知事、（公社）日本技術士会の右城猛理事より祝辞を頂いた後、中・四国各県からの来賓の紹介を行い、網田副会長の閉式の辞で閉会した。



写真 12 海野副知事



写真 13 右城理事



写真 14 閉式の辞



写真 15 式典の様子

■徳島県技術士会創立 50 周年記念祝賀会

「徳島県技術士会創立 50 周年記念祝賀会」は、天羽建設部会長の挨拶で始まり、来賓祝辞を、（公社）日本技術士会の大田中国本部長よりいただいた。乾杯の音頭は、花岡女性部会長が発声し、宴がスタートした。



写真 16 開会挨拶



写真 17 祝辞



写真 18 乾杯の発声

祝賀会場では、徳島の有名連である“娯茶平”の阿波踊りが会に花を添え、いつの間にか、会場狭しと踊り子たちで溢れかえっていた。



写真 19 踊る阿呆だらけ



写真 20 娯茶平連の阿波踊り



写真 21 伊藤副会長



写真 22 中締め

記念祝賀会の締めくくりとして、(公社)日本技術士会の伊藤副会長より一言いただき、最後に、正木商工部会長の挨拶で、全ての会が終了した。

『徳島県技術士会創立 50 周年記念式典』は、来賓の方々、出席者の皆さまならびに式典の企画、段取りから運営に携わった本会メンバーのお陰で、成功裏に終えることができた。

そして、一息ついてこの報告書にペンを走らせている時に、訃報が飛び込んできた。

式典のなかで何度もお名前が挙がってきた、本会の創設者である“木村初代会長”。我々とともに本会を盛り上げてこられた“清水会員”。お二人のご冥福をお祈りするとともに、在りし日のお姿をここに記す。安らかに眠りください。 合掌！



木村初代会長: 徳島県技術士会創立 40 周年時(H19)



清水会員: H24 年度徳島県技術士合格者祝賀会時



徳島県技術士会創立 50 周年記念写真